

2023年8月23日(水)第四水曜祈祷会

士師記13章1～25節

「サムソン 誕生前夜」

序論：士師記の概略 *イスラエルの最も暗い時代とも言える。

1. イスラエルは、カナン先住民と妥協し、神への背信(偶像礼拝)と墮落(不道徳)に陥る。
2. 罪に陥るイスラエルに対して、神は異邦人による圧迫・隷属という方法でさばきをくださる。
3. 苦しみの中で、イスラエルは悔い改め、神へのあわれみを求めて叫ぶ。
4. 神はイスラエルの祈りに答え、救助者としての士師(さばきつかさ)を遣わされる。

本論：『サムソン 誕生前夜』

1. 「主の使いによる受胎告知」(13章1～14節) *イスラエルは40年間ペリシテ人に支配される。

①主の使いは、マノアの(不妊の)妻の前に現れて、どのような告知をされましたか。

→

②主の使いは、マノアの妻に何を命じられましたか(3つ)。

→

③主は胎内にいる子について何と言われましたか。

→

2. 「わたしの名は不思議」(15～23節) *マノアはその方が主の使いであることを知らなかった。

①マノアができるかぎりのもてなしをしようと申し出た時、主の使いは何と言いましたか。

→

②主はマノアと妻が見ているところでどんな不思議なことをしましたか。

→

③マノアはなぜ自分たちは死ぬと言ったのですか。また、妻はなぜそれを否定したのですか。

→

3. 「サムソンの誕生と成長」(24～25節) *主の使いの預言は成就した。

①サムソンという名前には、どんな意味がありますか。

→

②「主の霊」が下ったことを、サムソンはどのように感じたでしょうか。

→

【適用と分かち合い】

①「生まれてくる子どもに何をすれば…」というマノアと妻は信仰的にどのような夫婦でしたか。

②20節で、マノアと妻が体験したことは、ギデオンの場合とどこが似ていますか。

③「ナジル人」と「クリスチャン」が似ているところはどこですか。

④サムソン誕生までに、マノアと妻に最も必要なことは何でしたか。